

【ポスター発表】

介護老人保健施設のケアスタッフの教育支援や研修

- プリセプター制度を取り入れている施設の調査から -

平澤泰子 (浦和大学短期大学部・7302)

小木曾 加奈子 (岐阜大学・6904) 阿部 隆春 (東京都福祉保健局 7301)

キーワード：介護老人保健施設 認知症ケア 教育支援・研修

1. 研究目的

介護老人保健施設は、介護保険法に基づく介護保険施設の一つであり、施設サービス計画に基づいて、看護、医療的管理の下における介護及び機能訓練その他必要な医療並びに日常生活上の世話をを行うことにより、入所者がその有する能力に応じた自立した日常生活を営むことができるようにすることとともに、その者の居住における生活への復帰を目指すものでなくてはならないと定義されている(介護支援専門員テキスト 2008)。また、2006年以降、療養型病床の介護保険型の廃止、並びに医療保険型の削減に伴い、医療の必要度の高い患者の受け皿として重要な役割となっている。近年、介護老人保健施設の利用者の平均要介護度は、3.25であり、全利用者の85%が認知症高齢者といわれている(介護支援専門員テキスト 2009)。

このような状況の中で、介護老人保健施設におけるケアスタッフの認知症高齢者ケアについての教育支援や研修の実態を明らかにすることは大変重要なことと考え、調査を実施した。

2. 研究の視点および方法

本研究の調査は2010年3月に実施した。A県にある介護老人保健施設で、プリセプター制度を取り入れている2施設の看護介護課長を対象とした。調査の方法は、介護老人保健施設における認知症ケアについての「ケアスタッフへの教育支援や研修」について、1人30～45分程度の半構成的面接で行った。管理者の協力を得て、施設内の一室で実施した。面接は、調査対象者の同意を得た上で録音し逐語的に記述をした。なお、データの信頼性を得るために、逐語録は調査対象者に依頼し確認を得た。

また、「ケアスタッフの教育支援や研修」の質問に対するインタビューによって得られた内容を、一つの意味をなす文脈で区切り1件とした。1件を一文一義とし、KJ法に準じてサブカテゴリー化しネーミングを行った。カテゴリー化にあたっては、研究者3名で協議し合意を得ながら進めた。

3. 倫理的配慮

調査対象者の所属長には、研究の主旨、プライバシーの配慮について口頭説明と文書をもって行い了承を得た。調査対象者に対しても口頭及び書面で研究の趣旨を説明し、個人名が特定されないこと、研究以外には使用しないことを説明し協力を依頼し、同意書を得

た。なお、同意書にはインタビュー後においても同意の撤回の自由がある旨の付記をした。また、入力段階でケア実践者個人が特定できないように工夫した。なお、本研究は、岐阜医療科学大学研究倫理委員会の承認を得て実施した。

4. 研究結果

サブカテゴリーは、『』で、カテゴリーは、「」で、主な内容は“ ”示した。一文一義の件数は語彙数とした。語彙数は83、14サブカテゴリーを形成し、5カテゴリーとなった。

語彙数30を示したサブカテゴリーは、『現場職員による職員教育』『現場職員による新人教育』『施設の現場は介護が主体』で構成され、“皆がいい関わりをするためには、その職員達実践する”“周りのスタッフに助けてもらって新人は成長していく”“医療行為は多いけれど介護が主”であることが示された。カテゴリーは、「生活の場における介護の視点の重要性」とした。

語彙数16を示したサブカテゴリーは、『認知症ケア専門士』『認知症ケアは介護職』『看護師の求める専門性』で構成され、“看護師さんは2人ほど認知症ケア専門士をとっている”“他の看護師が認知症にどっぷり入ろうとすることは難しい”“私は褥瘡が専門だとかいう”が示された。カテゴリーは、「認知症ケアへの対応」とした。

語彙数15を示したサブカテゴリーは、『介護のケアプランは介護が作成するべきである』『現状はケアマネのプランを使用している』『介護職のケアプラン作成の壁になるもの』で構成され、“日々ケアを行うにあたり、やはりケアプランというのは現場が立てるべきだと思う”“現状ではケアマネが立てている”“どうしても言語化したりとか、現場のスタッフはなかなか難しい”ことが示された。カテゴリーは、「ケアプランを充実させる」とした。

語彙数12を示したサブカテゴリーは、『施設外での研修を施設内で遂行する』『施設外での研修に出している』『施設外研修が活用されていない』で構成され、“施設外の研修を施設内でどのように研鑽していくかということで、伝達講習をする”“外の研修に行っている”“今は研修があまり活かされていないような気がする”ことが示された。カテゴリーは、「研修を現場のケアに活かす」とした。

語彙数10を示したサブカテゴリーは、『ICF導入の必要性』『ICFの研修の必要性』で構成され、“ICFを取り入れてやらないと皆で共有しいたケアができないのではないかと思う”“必要なのですが、ICFは今浸透していない”ことが示された。カテゴリーは、「ICFの視点での重要性」とした。

5. 考察

本研究の結果から、介護老人保健施設におけるスタッフの外部での研修は重要であり、研修を受けてきた職員が施設内職員を育てていくことが一番望ましい方法と認識していた。認知症ケアの専門性、ケアプランの介護職による作成、ICFの視点に基づいたケアの重要性も認識していた。しかしながら、主たる介護の現場まで到達されてなく、プリセプター制度を取り入れている施設であったが、更なる「研修体制の構築」が浮き彫りにされた。